

【高等学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)
 A: 十分達成できている
 B: おおむね達成できている
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

学校名 佐賀県立鳥栖工業高等学校 定時制

1 前年度 評価結果の概要
 ・どの評価項目も概ねまたは、十分達成できたという評価結果であった。
 ・基礎学力の向上は、令和2年度より更に成果が出ており、今後も重点的に取り組む目標である。引き続き、生徒の実態に応じた工夫を行いながら、計算力アップトレーニングを計画的に行い、基礎学力の向上を目指す。
 ・定時制進路指導部が担任、保護者、全日制進路指導部と密に連携を図ることで、生徒の希望進路の実現を達成できた。引き続き、生徒が社会との関わりの中で、進路意識の向上と希望進路の実現に向け、生徒の主体性を導き出すようなキャリア教育を推進する。
 ・いじめの問題への対応は、年間計画どおり、その取り組みを実施できた。引き続き、いじめの問題への対応に係る年間計画に基づき、その取り組みを実施することで、いじめの早期発見・早期対応に努める。

2 学校教育目標
 働きながら学ぶという基盤に立ち、広い視野と豊かな創造力を持ち、自ら学ぶ意欲と自らを律する力を備え、心身共にたくましく、個性豊かで人間愛に満ち、社会に貢献できる人材を育成する。

3 本年度の重点目標
 ① 基礎学力の定着を図り、自ら学びに向かう態度を育成する。
 ② キャリア教育を充実させて、希望進路の実現を目指し、積極的に社会と関わる人材を育成する。
 ③ 心と体の健康維持に努め、スポーツに親しむ態度を育成する。
 ④ 唯一無二の誇り高き学校づくり(将来を見通したキャリア教育の充実・希望進路の実現のための個別最適な進路指導)を推進する。

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○基礎学力の定着	○「計算力アップトレーニング」の積み重ねにより、基礎学力の向上を実感した生徒80%以上を目指す。	・定期的に「計算力アップトレーニング」を実施し、学習の積み重ねによる達成感を持たせる。 ・各教科で基礎学力定着のための時間を確保する。	A	・コロナ対策を実施しながら、ケアトレを年間11回実施できた。基礎学力の向上を実感できているというアンケートに「高く評価」「評価できる」と回答した生徒の割合は83.9%であった。	A	・生徒自身が意欲的に取り組めること、そして基本をやり込むことの意味を理解できる仕組みがあることは良いことだと思う。
	○資格取得の促進	○資格取得に積極的に取り組ませ、検定合格70%、国家資格取得50%以上を目指す。	・資格取得のための補習を実施する。 ・高度な資格の取得に挑戦する生徒に対し、個別指導を行う。	A	・パソコン利用技術検定3級は、83%の合格率となった。 ・数値目標の検定合格70%、国家資格取得50%以上合格は達成できた。	A	・働きながら学ぶ生徒に対し、真摯に指導をしていただいている様子がうかがえます。 ・資格取得の目的や動機づけについて、きちんと説明をお願いします。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやり、社会性、倫理観、正義感、感動する心等、豊かな心を身に付ける教育活動の推進	○ホームルーム活動等を通して、人権・同和教育や進路保障の学習会を実施し、基本的人権の尊重を重視できる生徒100%を目指す。	・ホームルーム活動等にて、人権・同和教育や進路保障の学習会を実施する。 ・人権・同和教育に関する講話を計画的に実施する。	A	・人権学習ホームルーム後のアンケートで、その趣旨を理解したかという質問に「理解できた」「だいたい理解できた」と回答した生徒の割合は95%であった。 ・12月は講話の計画がDVD鑑賞となってしまったが、生徒の感想には学習内容を理解し、しっかりと受け止め考えようとしている姿勢がみえた。	A	・人権学習は、最終的には自分(心と体)を守る教育だと思います。引き続きよろしくをお願いします。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の強化・充実	○いじめの未然防止、早期発見、即時対応に向けて、いじめの問題への対応に係る年間計画に基づき、その取組を100%実施する。	・いじめ対応についての職員研修を前期と後期に実施する。 ・定期的に学校生活アンケートを実施して、いじめの早期発見・早期対応に努める。	A	・4月と8月に職員研修を行い、6月、10月、12月にアンケートを実施した。 ・いじめ事案の発生件数は2件であった。今後とも、いじめの早期発見・早期対応に努めていきたい。	A	・今後とも、生徒さんたちに寄り添って、早期発見に努めてください。 ・難しい問題に取り組んでおられる教職員の皆様に感謝しております。
	◎★ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動の推進	○佐賀県の良さについて、その理解を深めることができた生徒80%以上を目指す。	・「佐賀語り」を使用して、佐賀県の歴史や文化、自然等について学ばせる。 ・佐賀県について興味を持ったことを学習用PC等を活用して、調べ学習を行わせる。	B	・佐賀県のことを学ぶ時間等を通して、佐賀県の偉人、歴史、自然等について学習を行った。ふるさと佐賀について理解を深めることができていたというアンケートに「高く評価」「評価できる」と回答した生徒は64.5%であった。	B	・生徒さんたちが、自分たちでテーマを選び、調査して発表する形で、郷土の文化・歴史・産業等と触れ合う機会を作ってください。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒100%を目指す。	・定期的に「保健だより」を発行する。 ・講演会や個人面談を通して、健康に関する意識を高める。 ・給食指導(手洗い・マナー等)の徹底を図る。 ・食育に関する啓発活動を推進する。	A	・毎日、生徒の登校時に、生徒全員に対して健康観察のための声かけと体温測定を実施した。その際に給食をきちんと食べるように呼びかけた。その成果もあって、今まで給食を食べていなかった生徒も給食を食べるようになってきた。今後も生徒1人ひとりへの声かけや「保健だより」等を通して健康に対する意識を高めていきたい。	A	・成果は達成されていますが、更なる生徒さんたちへの働きかけをお願いします。
	○運動習慣の改善や定着化	○基礎体力・持久力向上のために、授業において体づくり運動等を90%以上実施する。	・体育の授業冒頭に、時間を設定してランニング、縄跳び、ダブルダッチ等を実施する。 ・部活動を通して、生涯スポーツの基礎を身に付けさせる。	B	・コロナの影響と、夏場に気温が高かった時期は運動量が減ることもあったが、授業において体づくり運動を毎回入れることで、運動量をおおむね確保できた。	B	・学校外の施設利用等は考えられないでしょうか。 ・自宅でもできるストレッチなどを紹介しては？
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の縮減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・出退勤管理システムを有効に活用し、長時間勤務の職員に対し、指導・助言を行う。 ・学校閉庁日を設定する。	A	・定時制職員は、年間を通して時間外在校時間の上限を超えることがなかった。 ・夏季休業中の8/9~15の間の平日に、4日間の学校閉庁日を設定した。	A	・先生方の自己申告に無理はないでしょうか。 ・数値目標を達成できてよかったです。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○★唯一無二の誇り高き学校づくり	○★将来を見通したキャリア教育の充実 ○★希望進路の実現のための個別最適な進路指導	○進路意識が高まったと考える生徒80%以上を目指す。 ○卒業年次生の進路希望(第1希望)の実現率80%以上を目指す。	・外部講師によるキャリア教育講演会を実施し、生徒の実態に応じた講演会を開催する。 ・担任、進路指導部、全日制進路指導部等と密に連携を図りながら、生徒一人ひとりに最適な進路指導を行う。	B	・外部講師を招聘して、全校生徒対象に「自分のキャリアプランを考えてみよう」というテーマで講演会を実施した。生徒アンケートでは「わかりやすかった」「具体的なお話で良かった」という回答がみられた。 ・卒業年次生の希望進路(第1希望)の実現率は90.1%。令和5年1月末現在で進路未定生徒1名。	B	・定時制を選択したことを誇りにできるような考え方ができればと思う。 ・学校はよく努力されていると思います。生徒の皆さんの更なる成長を願っています。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・次年度への展望
 ・計算力トレーニング等の取組により、生徒の学びに対する意欲が向上した。基礎学力向上と資格取得の取組については、今後も引き続き継続するとともに、各授業の魅力向上にも努める必要がある。
 ・定時制の生徒はアルバイト等で社会との関わりを持つことから、異年齢とのコミュニケーションのレベルも相対的に高い。次年度は、就労に意欲がない一部の生徒に対し、重点的な指導が必要である。
 ・生徒の健康や食に関する意識は高いが、スポーツについては、苦手意識を持つ生徒もいる。体を動かすことの楽しさを実感させ、生涯にわたってスポーツを楽しむ習慣を育まなければならない。
 ・キャリア教育については、生徒一人ひとりの能力や適性、特性等を見極め、丁寧に対応することができた。次年度は卒業年次生のみならず、全学年の生徒に対し、定時制ならではの将来を見据えた手厚い指導が必要である。